Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

鳥取TAC通信

第１９２号　　令和８年５月発行

～ 定期異動のご挨拶 ～

４月１日付定期異動で全農鳥取県本部 TAC 推進課は新体制でスタートしました。

今後も担い手農家のみなさまのお役に立てる情報を提供していきますので、よろしくお願いいたします。

氏名	担当業務
大久保　智博	資材部長兼 TAC 推進課長 課内総括
大庭　美穂	県域 TAC 担当（JA 鳥取いなば管内） 営農関連業務全般（リゾケアなど）、労働力支援担当
髙澤　咲絵	県域 TAC 担当（JA 鳥取中央、JA 鳥取西部管内） スマート農業（ザルビオ FM、Z-GIS など）担当
尾﨑　陽花	令和８年度入会 県域 TAC 担当（JA 鳥取中央、JA 鳥取西部管内）補佐

～ 令和８年　春の農作業安全運動の取り組みについて ～

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会では、令和８年３月１日～5 月 31 日の３か月間を「令和８年 鳥取県 春の農作業安全運動」とし、農作業安全啓発に取り組みます。春の農繁期は、トラクターや動力運搬車などの農業機械を使った作業を行う機会が増えることから、この時期に多くの事故が発生しています。また、5 月頃から気温が高くなり始め、体が暑さに慣れていないことから熱中症になる危険性が高まります。



鳥取県内では令和７年４月１日から２月 28 日の期間に農作業事故が 11 件発生し、そのうち２件が死亡事故でした。春の農繁期を迎えるに当たり、事故防止のための一層の注意喚起と周囲の安全意識の啓発が重要となります。

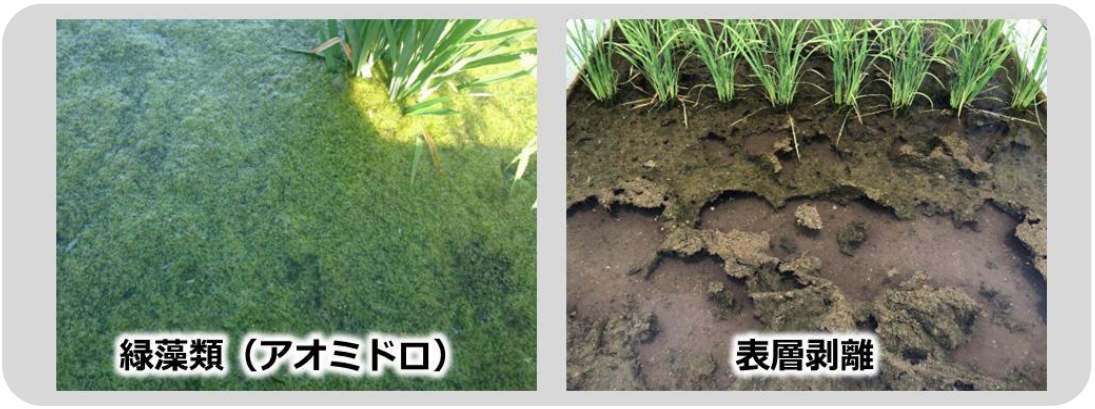
農業機械の運転・操作時の安全確認や安全装置の確実な使用により、事故の発生防止や被害軽減に努めましょう。

～ 藻類・表層剥離の防除について ～

今月は、水田圃場で問題になっている藻類・表層剥離の防除についてご紹介します！

○藻類・表層剥離とは

水田には、緑藻類（アオミドロ、アミミドロなど）、珪藻類、車軸藻類、藍藻類など数種類の**藻類**が発生します。**表層剥離**とは、土壌の表層が膜状になって剥がれ、水面に浮きあがる現象で、珪藻類や藍藻類によって引き起こされます。



緑藻類（アオミドロ、アミミドロ）や表層剥離の発生要因である珪藻類はいずれも**気温（水温）が高い場合**や土中に**窒素やリン酸が多い場合**に発生しやすい傾向にあります。

種類	発生に好適な水温
アオミドロ	18 ～ 25℃
アミミドロ	22 ～ 25℃（アオミドロより高い）
珪藻類	25℃（27℃以上で減少）

【図解】水田多年生雑草の生態を改変

○藻類・表層剥離による被害

藻類・表層剥離が多発すると、水稲への影響や拡散型製剤の拡散不良を引き起こす可能性があります。

水稲への影響

▶ 移植直後の苗のなぎ倒し　▶ 株元への絡みつき

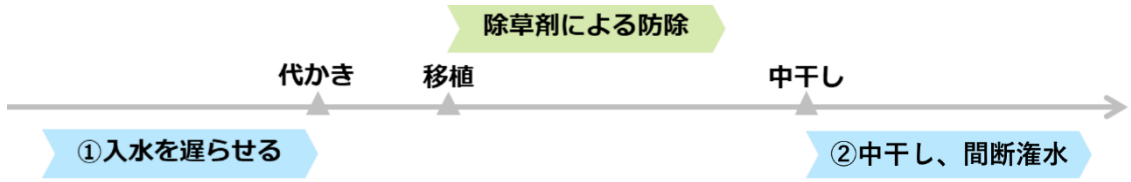
▶ 水温・地温の低下による**生育抑制**（多発すると 20%も分げつが抑制されます）

拡散型製剤の拡散不良

拡散型製剤の拡散が阻害されることにより、圃場内における部分的な**効果不足**、**薬害の発生**につながります。

このような被害を防ぐためには、雑草同様に藻類・表層剥離に対しても耕種的防除や除草剤を用いた対策をする必要があります。

○藻類・表層剥離の防除ポイント



耕種的防除

①代かき前の入水を遅らせる

藻類・表層剥離の発生を遅らせることができます。田植え直後に藻類・表層剥離が発生すると被害が大きいため、入水をできるだけ遅らせることで被害を軽減しましょう。

②中干し、間断潅水

水稲の分げつ数が確保できている場合は、中干しや間断潅水を行い、田面を出して乾かすことで藻類を防除することができます。

除草剤による防除

藻類・表層剥離に適用のある除草剤を散布しましょう。シメトリン、ジメタメトリンは藻類・表層剥離に対して高い効果を示す有効成分です。除草剤により散布適期が異なりますが、ひとたび藻類が発生してしまうと防除が困難になってしまうため、藻類・表層剥離が発生する前の防除を心がけましょう。

初期剤	一発剤	中後期剤
		
先陣 ・ジメタメトリン ・ピラクロニル	セイテン ・ジメタメトリン ・オキサジクロメホン ・フェンキノトリオン ・ベンスルフロンメチル	ツイゲキ ・シメトリン ・ピリミスルファン ・フェンキノトリオン

(注 1)商品は一例
(注 2)使用にあたってはラベルを必ずご確認ください

【効果事例】

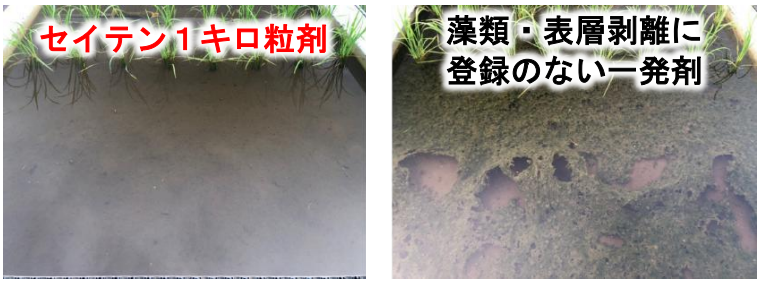


図　セイテン 1 キロ粒剤の藻類・表層剥離への効果（2023 年、処理 20 日後）

試験場所：全農営農・技術センター農薬研究室場外圃場
耕種概要：耕起 5 月 2 日、代掻き 5 月 16 日、移植 5 月 18 日
供試藻類：農薬研究室温室のポットに自然発生した藻類（アオミドロ、珪藻類）を採取し、5 月 25 日に試験枠内に投入し、表層約 5cm の土壌と手で混和した。
処理方法：5 月 25 日に藻類（アオミドロ、珪藻類）と土壌を混和した後に、各薬剤を 1kg／10a で処理した。

（出所：JA 全農　農薬研究室　農薬技術情報　2026/3/25）

～ 令和８年度ＴＡＣアグリビジネススクールについて ～

担い手の課題解決につなげるための営農（技術、地域振興および経営等）に関する知識取得および事例等の共有を図るため、今年度も以下の内容にて開催いたします。

すべてにご参加いただかなくても問題ありませんので、「この回の話を聞いてみたい」と思われる内容がありましたら、お気軽にご参加ください。（受講費用：無料）

回	日程	時間	テーマ
1	6月 3日(水)	10：00 ～ 15：00	生産資材・技術情報①
2	7月 1日(水)	10：00 ～ 15：00	総合事業連携の取り組み
3	8月 5日(水)	10：00 ～ 15：00	農業労働力支援・相続・事業承継
4	9月 2日(水)	10：00 ～ 15：00	農業現場における労務管理、会計基礎
5	10月 7日(水)	10：00 ～ 15：00	会計、税務研修①
6	11月 4日(水)	10：00 ～ 15：00	会計、税務研修②
7	12月 2日(水)	10：00 ～ 15：00	会計、税務研修③
8	1月 6日(水)	13：00 ～ 15：00	販売強化の取り組み
9	2月 3日(水)	13：00 ～ 15：00	生産資材、技術情報②
10	3月 3日(水)	13：00 ～ 15：00	農政情報･総括と次年度の取り組み方針について

※内容は変更になる場合があります。
※カリキュラムによっては開始・終了時間が異なります。
※開催場所および各回の詳細内容、参加の申込につきましてはJA全農とっとりTAC推進課までお問い合わせください。

～ 今月のグリーンレポートはこちらから確認できます ～

QRコード



①「**全農**」で検索
②ホームページの「**ライブラリ**」をクリック
③「**全農の出版物**」をクリック
④グリーンレポート「**最新号**」をクリック

【問合せ先】JA全農とっとり
資材部 TAC推進課
TEL:0857-32-8341 FAX:0857-28-6750

TAC（タック）は「地域農業の担い手に出向くJA担当者」の愛称です！